

長野県産シダ植物の新産地 (12)

上野 勝典*・上野 由貴枝

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (12)

Katsunori Ueno* and Yukie Ueno

コヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科)

Ophioglossum petiolatum Hook. 写真 1

・天龍村神原 330 m 2021 年 9 月 25 日
NAC198605

林道わきの苔むした地面上にハナヤスリ類がまとまって孢子囊穂を上げているのを見つけた。ハナヤスリ類は通常春先に出ることが多いので、時期としては季節はずれである。葉の長さが 2cm 程度と小さく葉の幅が長さと同程度に太い、また栄養葉に短い柄があることからコヒロハハナヤスリとした。よく似たコハナヤスリ *Ophioglossum x nipponicum* Miyabe et Kudô は葉の幅が狭くハマハナヤスリ *O. thermale* Kom. とコヒロハハナヤスリの交雑種とされ、以前平谷村で観察した(上野・上野 2011)。長野県でのコヒロハハナヤスリの記録はほとんどない(長野県植物目録編集委員会 2017)。関東以西に分布する暖地性のシダである。



写真 1 コヒロハハナヤスリ 天龍村
2021 年 9 月

フモトシダ (コバノイシカゲマ科)

Microlepia marginata (Panzer ex Houtt.) C.Hhr.

写真 2

・天龍村神原 320 m 2017 年 12 月 3 日
NAC198620

スギ林内の急斜面にフモトシダが群生していた。長野県でよく見かけるフモトシダはケブカフモトシダと呼ばれる型で葉の表面と軸に毛が多いが、見つけたフモトシダは毛が少なく、また最下羽片の一番内側の切れ込みが特に深く、また裂片が重なり合っており、長野県では初めて見る型である。葉面の色にも違いが見られ、ケブカフモトシダ型のものは黒っぽい緑色であるが、今回見つけたものはやや明るい緑色をしている。また、春の観察では、すぐ近くに自生しているケブカフモトシダ型のものは常緑で葉は枯れていなかった一方、今回見つけたものは葉が霜によって枯れ半常緑性で、寒さに対する耐性にも違いが見られた。以前、三浦半島でクジャクフ



写真 2 フモトシダ 天龍村 2017 年 12 月

*Corresponding author: hqi06262@nifty.com



写真3 ハゴロモコタニワタリ 辰野町
2020年8月

モトシダ *Microlepia x bipinnata* (Makino) Y. Shimura
によく似たこの型のフモトシダをときおり見かけた。フモトシダにはいくつかの型があることが以前から指摘されており、遺伝学的解析によって複数種の隠遁種からなることが示唆されているものの、まだ整理されておらず、今後別種として分けられる可能性がある(海老原 2016)。

オオバノアマクサシダ (イノモトソウ科)
Pteris terminalis Wall. ex J. Agardh var. *fauriei* (Christ)
Ebihara et Nakato
・天龍村神原 300 m 2019年9月8日
NAC198394

天龍村では2018年に長野県ではじめてオオバノアマクサシダを確認し(上野・上野 2019)、今回の場所もそのときに同時に見つけていたが、胞子嚢をつけておらず、オオバノアマクサシダと断定できなかった。翌年に現地を訪れたとき、胞子葉をつけて成熟しており、葉の形は小頂羽片の長く伸びるその特徴から、オオバノアマクサシダと確認できたので報告する。天龍村では2か所目となる。関東以西に分布する暖地性のシダである。

ハゴロモコタニワタリ (チャセンシダ科)
Asplenium × *ikekawae* Nakaike nom. nud. 写真3
・上伊那郡辰野町大字伊那富 1000 m 2020年8月1日 NAC198397



写真4 オニヒカゲワラビ 辰野町
2019年6月

林道わきのコンクリート壁にトラノオシダ *A. incisum* Thunb. に混じって、切れ込んだコタニワタリ *A. scolopendrium* L. が生育しているのを見つけた。羽片の切れ込み方と胞子が未熟であることから両者の交雑種のハゴロモコタニワタリとした。本種の報告はあまりないが、よく探すと両者の生育している場所で稀に見られるようである。

カタイノデ (オシダ科)
Polystichum makinoi (Tagawa) Tagawa
・下伊那郡根羽村浅間川 730 m 2021年5月10日 NAC198610

道路脇のスギ林下で数株のカタイノデがまとまって生育していた。表面に金属的な光沢があり、また葉柄基部の鱗片が黒褐色と特徴のあるイノデ類である。以前はほとんど長野県内で見えることはなかったが、近年、長野県南部北部の他、塩尻市や辰野町などの中部でも見られるようになった暖地性のシダの一つである。

ウスヒメワラビモドキ (イワデンダ科)
Acystopteris taiwaniana (Tagawa) Á. et D. Löve
・上伊那郡辰野町大字伊那富 1000 m 2018年11月11日 NAC198380

林道わきの岩場の脇にまとまって群落をつくっているウスヒメワラビモドキを見つけた。本種はウスヒメワラビ *A. japonica* (Luer) Nakai によく似てい

るが、より軸ががっしりとしてわら色をしており大型になる。包膜に腺毛がある。ウスヒメワラビは県南部に分布する暖地性のシダであるが、本種はより標高の高いところで見られ、これまで、南アルプス、北アルプス、中央アルプスから見つかった（上野・上野 2013、藤田 2018）。今回の場所はその中でもっとも標高の低い場所になる。

オニヒカゲワラビ（メシダ科）

Diplazium nipponicum Tagawa 写真 4

・上伊那郡辰野町大字上島 840 m 2019 年 6 月 30 日 NAC198395

・木曽郡南木曽町田立 730 m 2021 年 10 月 16 日 NAC198597

辰野町では林道わきの法面に葉身が 50cm ほどのオニヒカゲワラビが近接して 2 株生育しており、すでに孢子嚢を付けていた。一方の南木曽町では、すり鉢状の地形をした斜面のスギ林内で 30 株以上と思われる大きな群落となっており、葉身も 1m を越えるような大型に育っていた。本種は以前長野県内で見えることはほとんどなかったが、近年、見かけるようになった暖地性シダの一つで、辰野町はもっとも内陸になるとと思われる（長野県植物目録編纂委員会 2017）。また田立は長野県の木曽谷では初めての記録だが、以前旧山口村でも見つかった（上

野・上野 2018）。

引用文献

- 上野勝典・上野由貴枝 (2011) 長野県産シダ植物の新産地 (6). 長野県植物研究会誌 44: 37-40.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2013) 長野県産シダ植物の新産地 (7). 長野県植物研究会誌 46: 119-123.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2015) 長野県産シダ植物の新産地 (9). 長野県植物研究会誌 48: 79-80.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2018) 長野県産シダ植物の新産地 (11). 長野県植物研究会誌 51: 91-96.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2019) オオバノアマクサシダ. 長野県植物研究会誌 52: 87-89.
- 海老原淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研.
- 長野県植物目録編纂委員会 (2017) 長野県植物目録. 長野県植物目録編纂委員会.
- 藤田淳一 (2018) 長野県植物研究会第 215 回例会報告 安曇野市黒沢の植物. 長野県植物研究会誌 51: 141-149.